

# 地域の思いを一つに！つなげるフォトモザイクアート

6年3組 古山 宇宙 児童数30人

## 1 単元について (1) 思いや願い

### 子ども

自分たちの今年度付けたい力はたくさん出たが、「一つにまとめる力」を特につけたいとなった。また今までの活動を振り返る中で、地域の店や施設で働いている人に協力してもらいながら活動してきたと感じていた。その中で「今までたくさん地域の方にお世話になってきたからこそ最後の総合で何か力になれることをしたい。」という思いがクラスの中で高まった。

力になれることは何かと考えたが、地域の方の生の声を聞かないとわからないということになり、お店に取材した。その中で「コロナが落ち着いたらまたこのまちに多くの人に来てほしい。」という声がすべての店から挙がった。

地域の方の思いと自分たちがしたいことを一番実現できることは何かと話し合い、たくさんのお店のよさを一つにまとめて表現できるものにしたくなった。その中で動画やアニメーションも挙げたが、一つのものにまとめるという点や多くの人にみてもらうことを実現でき、地域のよさをより伝えたい思いも実現できることから本単元が立ち上がった。

### 教師

今まで多くの地域の方や専門家と関わりながら、より良いものにしていくために改善をしながら高めていく学習をしてきた。その中で児童は進んで人に関わったり、話したりするよさを実感してきた。

本学級は一人ひとりが個性的で、こだわりが強い児童も多いのが良いところである。一方で自分の意見や思いを伝えられない児童もいるため、発言が偏ってしまうことも少なくない。また、一番の課題は、他の友達より自分を優先し、まとまりがないため今回の活動を通して一体感を味わわせたい。

フォトモザイクアートは、写真一枚にもこだわり、アート全体としても地域の方の思いを表現することができる。また、一番のよさは児童一人ひとりが撮影した写真を一つの作品にまとめ表現することができることである。みんなで何かを作りやり遂げる楽しさを実感させたい。そして、仲間と関わるよさに加え、地域の方とも繰り返し関わることで、地域と関わるよさや温かさを感じ、自分から進んで人と関わる態度を育てたい。

## (2) 材固有の価値(フォトモザイクアート)

- 全体と一枚の写真で思いやメッセージを伝えることができる。
- 一枚一枚に作り手の思いが込められる。
- 人の目にとまりやすく、インパクトがある。
- 世界に一つでどのテーマにも対応することができる。
- 様々な大きさにできることで、貼る場所も柔軟に対応できる。

## (3) 本単元における探究課題と資質能力

本単元における探究課題	本単元における探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
フォトモザイクアートを協働して作りあげるよさ、地域の方の温かさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に応じて調べる方法を選択し、必要な情報を集めることができる。</li> <li>・写真には一枚一枚に思いが込められていることに気付く。</li> <li>・地域の方は自分のためだけでなく、相手のことを考えて関わっていることに気付く。</li> <li>・地域の方のために自分が進んで関わっていこうとする思いの高まりは、探究的に学んできた成果であることに気付く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「多くの人にこのまちのよさを知ってほしい」という思いの実現に向け、必要なことを考えて解決に向けた見通しをもつことができる。 (課題設定)</li> <li>・地域の方への取材や専門家との関わりを通して、課題解決のために必要な情報を集めることができる。 (情報収集)</li> <li>・集めた情報を自分たちの目的や専門家からの助言をもとに整理し、課題解決に向けて分析することができる。 (整理・分析)</li> <li>・自分たちの思いや地域の方の願いが詰まったフォトモザイクアートを作成し、発信することができる。 (まとめ・表現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の意見を聞いたり、受け入れたりしながら、協力して取り組もうとする。</li> <li>・自分たちの目標の実現に向けて、進んで話を聞いたり、取材したりしようとする。</li> <li>・地域のために自分ができることを見つけ、進んで関わろうとする。</li> </ul>

#### (4) 単元目標

「多くの人にこのまちのよさを知ってほしい」という思いの実現に向けて、今まで関わってきたからこそ知っているお店や施設のよさを写真に撮り、フォトモザイクアートを作成して発信する活動を通して、友達と協力して活動するよさを感じたり、地域の方の働く姿や温かさに触れたりすることで、人と関わるよさに気づき、自分が地域の方のためにできること考え、これからも自分から進んで関わっていこうとする。

#### (5) 単元構想 全70時間 (総合70時間)

##### ○活動

次の活動につながる子どもの思い

【小単元のねらいと手立て】

今年の総合の計画を立てよう。(総⑤)

- これまでの学びをもとに、身に付けたい力や目的を決める。
- 地域の現状や実態を知る。
- 今年度、クラスの願いや目的が達成できる材を決める。

総合的な学習の時間で大切にしたいことや付けたい力を明確にするために、これまでの学習経験や付けたい力を振り返り、付けたい力や材を照らし合わせ児童の思いを大切に整理しながら話し合う。

今まで自分たちは地域の方や専門家に関わってもらいながら総合を成功させてきたね。今年は最後だから、今まで関わってもらったお店や施設のためにできることをしたいね。地域の方はまちにコロナが落ち着いたら来てほしいといっていたから多くの人にこのまちのよさを伝えていこう。そのためにフォトモザイクアートなら多くの店のよさを一つにまとめてもらえそう。でも、そもそもフォトモザイクアートってどういうものなのだろう？

地域の思いを一つに！つなげろフォトモザイクアート

フォトモザイクアートってどういうものなのか知ろう！(総⑩)

- どのような作品があるのか実際に見たり調べたりして知る。
- どのようなことが表現できそうか整理してまとめる。
- フォトモザイクアートを作る手順を専門家のAさんに教えてもらう。
- 教えてもらったことをみんなで共通理解し、今後の見通しをもつ。

フォトモザイクアートのイメージをもてるようにするために実物を用意する。また、フォトモザイクアートの作り方を知るために、作成している専門家に話を聞く機会を設け、見通しがもてるようにする。

フォトモザイクアートってたくさんのもがあるけど、全体で絵や文字で伝えているものが多いね。大きさもその場に応じて変えられるし、インパクトがあって人の目に留まりやすいのもよさなんだね。Aさんが2000枚の写真が必要といっていたね。作り方はわかったけれど、貼る場所によって大きさや枚数に変化していくからまずはどこに貼るか決めないとけないね。

まちのよさが伝わるフォトモザイクアートをつくろう！(総⑫)

※小単元構想参照

専門家のAさんやBさんに繰り返し関わってもらったことで、やっと一枚一枚に地域の方の働く姿や商品とか自分が感じるよさが詰まった写真を使ったフォトモザイクアートが完成したね。写真もただ撮るだけでなく、自分の思いを込めて撮ることが大切だとわかったね。また、友達とどのような写真がよいか協力してやることで良いものが作れたから、みんなでやることってとても大切だと思った。完成したものを桜木町駅に貼りに行こう。どんな反応がもらえるか楽しみだね。

自分たちが表現したいフォトモザイクアートを実現させるために、専門家のWさんやNさんに繰り返し関わり、改善することができるようになる。なんのために活動しているのかを再認識するために、立ち止まり目的やよさとはなにかを確認する時間を必要に応じて確保する。

フォトモザイクアートでまちのよさを伝えよう！(総⑮)

- 完成したフォトモザイクアートを桜木町駅に貼りに行く。
- フォトモザイクアートを見た人や取材したお店から反応をもらう。
- もらった反応を整理し、まとめる。
- 一年間の活動を振り返る。

これまでの自分たちの活動に満足感や達成感を得るために、地域の方の生の声を集めるようにQRコードを活用する。また、自分たちが年度当初に立てた目的が達成できたか確認するために項目立てて振り返りをする。

地域の方も「このまちにもっと行きたくなった」「コロナが落ち着いたら食べに行こう」と喜んでくれたし、少しは自分たちが考えるよさが伝わったんじゃないかな。地域の方のためといっていたけどまた協力してもらって本当にまちの人はあたたかいね。このまちを大切にしたいし、これからも自分にできることを考えて、中学に行っても関わり続けていきたいな！

## 2 小单元について

### (1) 小单元目標

「多くの人にこのまちのよさを知ってほしい」という思いの実現に向けて、地域の方に取材をしたり、専門家の方にアドバイスをもらったりしながら、フォトモザイクアートを作ることを通して、写真には一枚一枚に思いを込める必要があることに気付く、友達と協力して写真を撮影しながら、地域の方の温かさを感じてフォトモザイクアートを作成している。

### (2) 具体の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>○写真は一枚一枚に思いを込める必要があることに気付いている。【知①】</p> <p>○フォトモザイクアートを見てもらうためには色や構図を工夫することで目に留まりやすくなることに気付いている。【知②】</p> <p>○状況に応じて地域に取材したり、専門家に聞いたりするなど方法を選択して調べている。【技①】</p>	<p>○自分たちの思いの実現のために、フォトモザイクアートを作るうえでの見通しをもっている。(課題の設定)【思①】</p> <p>○地域の方に取材をしたり、専門家に話を聞いたりする活動を通して、自分たちに必要な情報を収集している。(情報の収集)【思②】</p> <p>○収集した情報を共有したり、分析したりすることで、必要な情報を整理して課題解決に向けて分析している。(整理・分析)【思③】</p> <p>○取材や教えてもらったことを生かして、写真を撮ったりフォトモザイクアートを作ったりしている。(まとめ・表現)【思④】</p>	<p>○友達と意見を出し合ったり、意見を聞いたりしながら、フォトモザイクアートを作成しようとしている。【主①】</p> <p>○自分たちの作りたいフォトモザイクアートの実現に向けて、進んで話を聞いたり、試行錯誤したりしながら取り組もうとしている。【主②】</p>

まちのよさが伝わるフォトモザイクアートをつくろう！(総30)

フォトモザイクアートをどこに貼ればいだろうか

- 貼る場所について話し合う。【主①】
- 桜木町駅に貼らせてもらえるか、お願いしに行く。【主②】
- フォトモザイクアートを作るうえでの見通しをもつ。【思①】

今後 12月までに完成させたいから計画的に見通しをもって活動できそうだね。

貼る場所が桜木町だからだ 500枚 くらいの写真が必要だから 3時間くらいは必要かもしれないね。

次は写真を撮り行きたい。でもどうやって撮るのかわからないから技術を Nさんに教えてもらおう。

どんな写真を集めればよいだろうか

- 撮影する際のポイントを知るために、Aさんに写真の撮り方の技術を教えてもらう。【思②】
- Nさんに教えてもらったことをもとに、写真の撮り方のポイントを整理する。【思③】
- だれがどのお店に取材、撮影に行くのか計画を立てる。【思①】
- お店や施設に取材をしたり、写真を撮ったりして地域のよさを集める。【主②】【技①】【知①】

お店の看板商品がとっても美味しいから伝えたいと思って撮ってきた。

お店の方の接客しているのがいいなと思ったから撮ってきた。

正直、自分だけじゃこれ以上よさが見つからなくて困ったな。

ただとっているだけの人や困っている人もいるからどんなよさを撮ってきたか共有したい。

- 伝えたいよさがこもっている写真になっているか整理する。【思③】(本時)

自分は人はなかなか撮っていいか聞けなかったけど、次は聞いてみよう。

お客さんとのやり取りしているときにAさん確かにいい表情してた。

ケーキを作っている姿とか自分しか見せてもらってないから撮影したい。

一枚一枚の写真に自分の感じるよさが込められていればいいんだね。

- さらによさが伝わる写真を撮影しに行く。【思④】【主②】【技①】【知①】
- Nさんに一枚一枚の写真に込めた思いを見てもらう。【主②】

お店の方の笑顔や、接客している姿がたくさんあっていいね。そのお店のよさが伝わるといわれたよ。

最初はそんな枚数撮れないと思っていたけど、関わるごとに撮りたいことが増えてきて足りないくらいだった。

一枚一枚こだわって自分たちの感じたよさが詰まった写真が撮れたね。そして次はフォトモザイクアート全体で何を表すか決めていこう。どのしたら、多くの人に見てもらえるのかな？

多くの人によさを知ってもらえるフォトモザイクアートにするにはどうしたらいだろうか

- フォトモザイクアート全体で表したい思いを整理する。【思①】【主①】
- 全体で表したいデザインを一人ひとりが考える。【主①】

お店や施設の方の思いはコロナが落ち着いたら、多くの人に来てくれるのを待っているといていたからそれを表現したい。

見てもらう人にも言葉で伝えるのと絵で伝えるのが分かりやすくいいと思う。

見てもらうための工夫って文字の色とか配置ってわからないよね。Wさんはたくさん作ってきているから相談してみよう。

- 見てもらいやすい工夫を知るために、Aさんに取材して情報を集める。【思②】
- Wさんのアドバイスをもとに分析し、色や配置の効果をまとめる。【思③】【知②】

待っているという思いを伝えるように、言葉で入れるようにしよう。また、色もみんなが見える色が良いついて言っていたからこの色で表したいな。

絵でもつながっているような手をつないでいる感じが決まったね。見た目のインパクトが大切だから、真ん中に大きく入れるものにしたい。

教えてもらったことをもとに、自分たちのフォトモザイクアートを完成させよう。どのデザインがいいんだろうか。

- 自分たちの伝えたいことが最も伝わる、全体の構成を最終決定し、Wさんに依頼する。【主①】

やっと、一枚一枚の写真にみんなが感じるよさがこもったフォトモザイクアートが完成したね。写真一枚一枚には自分たちの感じる地域の笑顔やおすすめ商品など自分が感じるよさを写真に表せたね。また、全体では地域の方の思いを込めたデザインにすることができて、これでやっと桜木町に貼ることができるね。地域の方やみんなと協力して作ったからこそ多くの人に喜んでほしいね。

### 3 本時について

#### (1) 前時までのみとり

専門家に写真を撮る際には事前にコミュニケーションをとることが大切であると教えてもらった。そのため、時間を見つけて話をしに行ったり、名前を聞いたりして関係性を気付いた。その中で感じたそのお店や施設のよさが伝わる写真を撮影した。しかし、自分だけではよさが伝わるかわからないため、クラスで見合いたいという思いが高まった。

#### (2) 本時目標 (15/30時間) **響き合いの視点** (自分と響き合い学びを深める子)

撮ってきた写真を見合う活動を通して、自分が感じたよさがより伝わる写真にするために必要なことを考えている。

#### (3) 本時展開

学習過程	活動と内容	□教師の手立て ☆評価
導入	○本時のめあてとゴールを確認する。 <b>よさが伝わる写真になっているだろうか</b>	<b>課</b> 今日の活動のゴールを明確にしておくことで、活動の意味を明確にする。
展開	○各グループで写真を見合い、よさが伝わる写真になっているかどうか話し合う。 ・店主さんの人のよさが伝わるよねこの写真。とっても良さが伝わる。 ・お店の方の温かさってもっとやわらかい表情の写真を撮ってきたらいいんじゃないかな。 ・ケーキのおいしさって伝えるの難しいね。たくさんの商品を撮るよりおすすめの商品をいろんな角度で撮った方が伝わるんじゃないかな。 ○クラスでよさが伝わる写真が撮れていたか共有する。 ・もっと笑顔の写真を増やした方があたたかさが伝わるんじゃないかと話になった。 ・伝えたいことじゃない写真があるってなった。 ・もっとわかりやすいように大きく撮った方がいいかもしれない	<b>環</b> ロイロノートを活用し、自分の伝えたい思いが分かるようにする。 <b>環</b> 伝えたいよさがとくに写真を付箋にまとめておく。 <b>出</b> 目的や基準を明確にするために項目立てて板書できるようにする。
まとめ	<b>第二発問</b> <b>よさが伝わる写真を撮るためにこれから一人ひとりでどうしていく？</b> ・自分は店員さんの優しさを伝えたいから、もっと通って自然な笑顔が撮れるようにしたい。 ・もっと優しい店主さんのよさを伝えたいから笑顔の表情を増やしたいと思った。 ・グループみんななかなか店員さんのよい表情が撮れていなかったからお客さんと関わっているをとりたい。 ・いろいろな公演があることを伝えたいから、もっといろんなタイミングで撮りに行きたい。	☆自分が感じたよさがより伝わる写真にするために必要なことを考えている。 <b>【思③】</b>
<b>響ポイント</b>		
振り返り	○振り返りを書く。 ・みんなで話したことで、もっと良さが伝わる写真を撮りたいと思った。自分をもっと表情を豊かな写真を撮りたいから、もう一度写真を撮りたい。接客しているときにいけたらいいな。	<b>環</b> 時間を5分間とることで自分を振り返り今後の見通しがもてるようにする。また、自分の写真を見返すことで、自分事としてとらえることができるようにする。



② 事業実施報告書詳細

学校名 横浜市立本町小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
5	教室	6年間お世話になった人やまちのよさを伝えたいと意欲をもち、どのような方法で表現していきたいか話し合う。 今後の活動の計画を立て、一年間の見通しをもつ。		小学校生活最後の総合の学習を通して、学校やまちのよさをフォトモザイクアートで伝えたいという気持ちが高まった。
10	教室	写真の撮り方や意識していることを専門家の方に教えてもらう。 自分の感じるまちのよさを出し合い、どのようなものを撮影していくか検討する。		光の角度や足の使い方を意識してとることがよいことを知った。また、その一枚を撮るまでに関わりを続けることが大切と学んだ。
35	教室 地域	写真を撮りたいお店や施設の方に取材をして、自分たちの目的や撮りたいものを伝える。また、繰り返し関わることで顔を覚えてもらう。  自分の決めたお店や施設の写真を撮る。そして、友達や専門家にアドバイスをもらいながら改善していく。		撮影した写真を見返し、店舗やおすすめ商品だけでなく、人と繰り返し関わることでその人のやさしさやあたたかさをより感じるようになった。
20	教室 地域	フォトモザイクアートで全体の構図をどのようにしたいか話し合い決める。 自分のこだわりや表現したいことを専門家に伝え、フォトモザイクアートの仕上げの依頼をする。 桜木町駅に完成した作品を掲示してもらいに行く。		自分たちが撮影した写真が1つのフォーマットになることで、改めてまちのよさを感じたり、こだわって写真を選んだりすることの大切さを理解した。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

本校は、みなとみらいなどの観光施設が多くある場所だけでなく、昔ながらの商店、建物、風景も残っており、ガイドブック等に記載されていない魅力がたくさんある。小学校に入学してから継続して関わっていただいたからこそ知っている人の温かさや笑顔を写真に残し、集めてフォトモザイクアートにした。コロナ下ではあるが、できるだけ自分たちから繰り返し足を運び、関わりを続けるようにした。そうすることで自然と他の人が知らないことを教えてもらえたり、撮影させてもらえたりできるようにし、自分たちだからこそ知っているという特別感を出せるよう工夫した。

(2) 実施にあたり苦労した点

コロナ下ということで大人数でまちに繰り出す際の注意点や留意点が多く、活動に多少なりとも制限が出た。また、写真を撮る際にも撮りたいところがお店の都合で撮ることができなかったり、人が映ってしまったりして時間がかかったり苦労するところが多かった。

「お店に行きたくなる」という視点で写真を撮影したが、子どもだけの視点で決めてよいか、周りの声を聞きすぎても伝えたいことが表現できないのではないかと葛藤している姿があった。その中でも、一人一人が自信をもって「これでいこう！」と思えるものをとることができるよう授業時間以外でも自ら撮影に行こうとする姿が見られた。

(3) 児童の反応

同じものでも撮る角度や視点を変えると大きく見え方が変わることに気付いた。自分たちから繰り返し関わることで今まで感じた店主のやさしさや商品のこだわりを再発見し、地域への愛着を深めることができた。「卒業しても買いに行こう」「また髪を切ってもらおう」などこれからも学習とは関係なく地域の方との関わりを大切にしていこうとする声も聞かれた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

何度も児童が足を運んでもいつも丁寧に対応してくださる地域の方のやさしさを感じた。仕事中でも手を止めて子ども扱いすることなく人として接してくれるこの姿こそが児童の成長につながっている。これからも総合的な学習の時間だけでなく、ほかの教科でも地域の方と進んで関わることで大人との接し方や地域の方の温かさに触れることができる機会を低学年の時から増やしていこうと思うようになった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

課題は費用面です。今回支援していただいたためフォトモザイクアートの作成を業者に依頼することができた。しかし、校内でまかなうのはなかなか難しいため、このような助成金事業を児童の教育という観点から続けていただきたい。